

## 自然再興と土地劣化中立社会への変革 ～生態系拡張アプローチからの提案～

国際協力機構（JICA）は、8月22日（金）16時～18時、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて、「農業を通じたネイチャーポジティブ社会の実現とアフリカにおけるレジリエントな農業の可能性」をテーマに、サイドイベントを開催しました。対面66名とオンライン141名を超える参加者が参加しました。

本イベントは、農業と環境保全の関係性を再考し、自然環境と人間社会の健全な機能を回復する食料生産の在り方について理解を深めることを目的として開催されました。特に、持続可能な農業の実践を通じて農業生産と生態系回復の両面を実現する方策、乾燥地におけるレジリエントな農業の実践、都市と農村の格差是正といった課題にどう向き合うべきかを議論する場となりました。

基調講演では、4名の講演者が登壇し、それぞれの専門的な視点からの事例を紹介頂きました。シネコカルチャーによる農業と生態系回復の両立の取り組み、セネガルにおける農業実践上の課題とシネコカルチャーの試験的取り組みにかかる考察、そして環境再生型農業の原則や「土」を育てることの重要性・地域社会との繋がりを深める農の在り方など、生態系を拡張するアプローチの理念・理論やその有効性、そして現場での実践について報告がなされました。

パネルディスカッションでは、生物多様性の危機における農業の在り方、サヘル等の乾燥地におけるレジリエンスの観点、地方の活力を引き出す農業の役割等の視点から、5人のパネリストにより多角的に意見が交わされました。議論を通じて、それぞれの土地の歴史や背景を理解する重要性、科学に基づき社会課題の根本原因を特定し包摂的なアプローチを取ることの重要性、人が自然の一部として生態系を育む社会への変革（Nature positive）の重要性などが確認されました。最後に「農」を通じて生態系と人間の健全な機能を回復する食料生産の実現に向け、アフリカ、日本、そして世界の関係者とともに「共創」の取り組みを推進して行くことが述べられました。

### ■本イベントの主な登壇者

#### 【開会挨拶】

・ Mr. Gilles Amadou Ouédraogo（ジル・アマドゥ・ウエドラオゴ）氏  
プログラムマネジメントオフィサー グレートグリーンウォールアクセレレー

## ター／グローバルメカニズム 砂漠化対処条約（UNCCD）

### 【基調講演】

- ・ 船橋 真俊 氏 SynecO 代表取締役 Sony CSL Research Director
- ・ Mamadou Ndiaye（ママドゥ・ンジャイ）氏 セネガル NGO Intermondes 代表
- ・ Raymond Epp（レイモンド・エップ）氏 メノビレッジ長沼共同代表／Maoi Cover Seed 代表
- ・ 荒谷 明子 氏 メノビレッジ長沼共同代表

### 【パネリスト・モデレーター】

- 船橋 真俊 氏 SynecO 代表取締役、Sony CSL Research Director  
Mamadou Ndiaye（ママドゥ・ンジャイ）氏 セネガル NGO Intermondes 代表  
Raymond Epp（レイモンド・エップ）氏 メノビレッジ長沼共同代表／Maoi Cover Seed 代表  
荒谷 明子 氏 メノビレッジ長沼共同代表  
Ruth LANGSI YELOMA（ルース・ランジ・イエロマ）氏 Terre Des Jeunes Cameroon 代表／Association for the Promotion of Synecoculture (ACPS) カメルーンコーディネーター  
栗元 優（モデレーター）JICA 地球環境部森林・自然環境保全グループ自然環境第二チーム 課長

### 【閉会挨拶】

川村 謙一 JICA 理事

### ■写真



■関連する SDGs ゴール :

